

公開シンポジウム「社会に対する若手研究者の責任—科学者倫理と若手研究者—」
報告（案）

主催：日本学術会議 若手アカデミー委員会 若手研究者ネットワーク検討分科会

日時：平成26年7月26日（土）13:00～15:40

場所：大阪大学中之島センター 講義室201

参加者：35名（うち若手アカデミー委員 11名）

アンケート回答数：17（年齢構成：30代13名、40代1名、50代3名）

シンポジウム担当委員：井藤彰、竹村仁美、半場祐子（司会）

冒頭、半場よりシンポジウムの趣旨を簡単に説明した後、駒井章治 若手アカデミー委員会委員長から挨拶があった。

中村征樹氏（若手アカデミー委員、大阪大学高等教育推進機構）により「研究不正を防ぐために科学者コミュニティとしてなにができるのか」と題する講演が行われた。中村氏は理化学研究所で発生したSTAP細胞問題の外部評価委員のメンバーであったため、STAP問題の概略や、研究不正を防止するために欧米で採用されている枠組みの説明をいただいた。研究不正の防止にあたっては、懲罰だけでなく「すぐれた研究行為」を明示化し、それを推進して行くしくみが不可欠であると強調されていた。

次に八代嘉美氏（京都大学iPS細胞研究所上廣倫理研究部門）により「「再生医療」が社会とつながるために」と題する講演が行われた。八代氏もSTAP細胞問題をとりあげられ、研究分野が近いことから、なぜ不正が疑われ、どのような「手口」で行われたと考えられるのかについてかなり突っ込んだ話があった。また、再生医療がかかえる問題についてもとりあげられ、自由診療となるため事実上ルールがないこと、メディアによって過剰な期待があおられるがちであること等が指摘された。

その後総合討論を行い、フロアからの質問をもとに質疑応答や議論を行った。フロアからは、理研や早稲田大学の対応は十分と言えるのかという質問や、研究不正の防止のための環境整備のための具体例を尋ねる質問などが出され、講演者や駒井、蒲池をはじめとする若手アカデミー委員の回答やコメント等を通じて議論が行われた。閉会の挨拶を蒲池みゆき（若手研究者ネットワーク検討分科会委員長、工学院大学）からいただき、閉会した。